

# インターネット嗜癖のストレス脆弱性に関する生理心理学的研究

総合科学部・心身健康コース(心理学分野)・学習心理学研究室 准教授 津村 秀樹

## インターネット嗜癖とストレス反応

インターネット嗜癖(Internet addiction; IA)とは、インターネットに対する過度の没頭、衝動、行動を制御できず、結果として生活機能の低下や心理的苦痛が引き起こされることと特徴づけられている。これまでの研究で、IAは高いストレス反応を示すことが報告されており、**高いストレス脆弱性がIAの形成、増悪、維持に**関与していると考えられている。

## コルチゾールのストレス反応の鈍化

本研究では、自己報告式質問紙Internet addiction test(Young et al., 1998)の得点に基づいて、実験参加者をIA群、非IA群に群分けし、心理社会的ストレス負荷後の、感情、唾液中コルチゾール、唾液中 $\alpha$ -アミラーゼ、血圧の測定を行った(図1)。

その結果、**IA群ではコルチゾール反応が鈍化**していることが示された(図2)。本研究の結果から、コルチゾール反応の鈍化が、インターネット嗜癖のストレス脆弱性に関与している可能性が示唆された。

図1 本実験の手続き

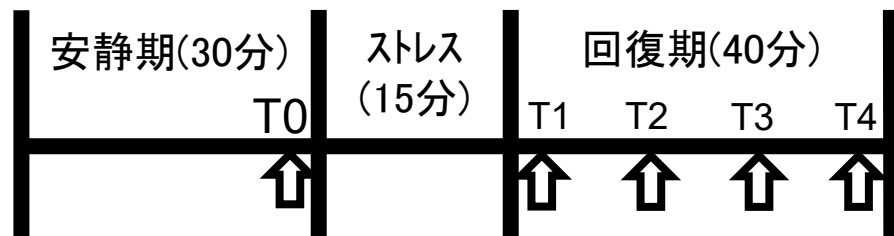
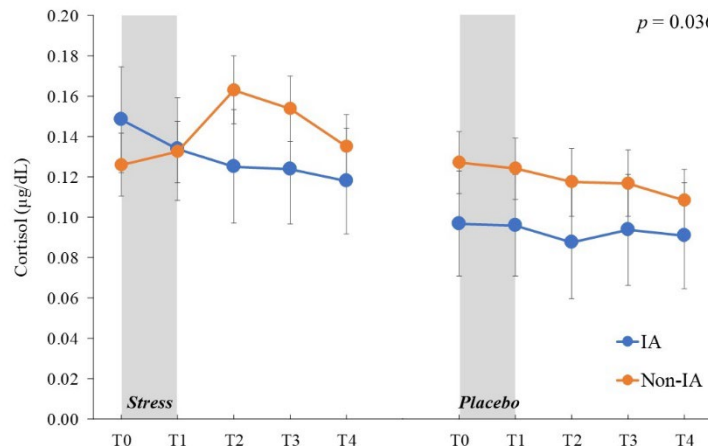


図2 ストレス負荷後のコルチゾール濃度の変化



↑ 唾液採取  
↑ 血圧測定  
↑ PANAS回答

分野: 心理学 専門: 臨床心理学

(研) 社会産業理工学研究部・社会総合科学域・人間科学系・心理学分野

E-mail: tsumura.hideki@tokushima-u.ac.jp Tel. 088-656-7191

